

探してみよう！冬虫夏草

冬虫夏草を知っていますか？昆虫などの宿主(しゅくしゅ)にとりつき、宿主を殺して栄養源としながら成長するキノコのこと、漢方薬としても知られています。種類によって発生時期は異なりますが、多くは梅雨から夏にかけてよく見ることができます。下草が少なく、落ち葉や土が目立つ林の地上や斜面が発生ポイントです。今回は、身近な環境に発生する冬虫夏草をいくつかご紹介します。普通に歩いているだけではなかなか目に付かないので、出会えた時の喜びは格別ですよ！



オオセミタケ

春先から、庭や公園の地上で見られる大型の冬虫夏草。アブラゼミやミンミンゼミの幼虫に寄生します。

見た目は普通のキノコですが、掘り取ってみると根状に細くなった地下部の先に宿主が連なっています。



オサムシタケ

雑木林の切り通し状の斜面などに発生します。オサムシ類に寄生します。シンネマ(キノコ)は白い虫ピン状で、梅雨明け頃からよく見かけるようになります。



カメムシタケ

落ち葉の多い樹林下などに発生します。カメムシ類に寄生し、宿主となるカメムシは40種ほど。

ストローマ(キノコ)は赤い棍棒状で見つけやすく、入門編ともいえる冬虫夏草です。



クモタケ

雑木林や公園のやや土っぽい環境に発生する大型の冬虫夏草。キシノウエトタゲモに寄生します。

シンネマ(キノコ)は紫色の綿棒状で、梅雨明け頃から発生が見られます。



ツクツクボウシタケ

セミの多い公園や緑地の苔むした地上に生えます。ツクツクボウシの幼虫に寄生します。

宿主となった幼虫は白い菌糸に覆われます。梅雨から夏にかけて各地で見ることができます。



ハナサナギタケ

夏から秋の雑木林でもっともよく見かける冬虫夏草。鱗翅類のサナギに寄生します。ウスキサナギタケの無性世代に当たり、白い花のような姿が薄暗い林床でよく目立ちます。